

広報とらっく

令和6年（2024）年9月5日（1）

ドライバーと家族の幸せは
毎日の「健康管理」から

作本ヘルスケアネットワーク副理事長 健康に着目した経営を

「物流の2024年問題」を解決するためには、人材の確保・育成・定着が急務であり、業界の将来を担う若年者および女性などにも「魅力ある業界」として認識されなければならぬ。しかし、現状では、多くの運送事業者において、荷主企業・元請事業者との運賃・料金交渉は道半ばであり、ドライバーに全産業平均並みの賃金を支給できるようにするためには、今がまさに正念場である。

こうした状況を改善しながら、第一線で活躍しているドライバーに、安全・安心な職場環境の下、健康で長く働いてもらうことが最も重要である。そのためには、

ドライバーの健康増進への取り組みがなお一層求められる。ドライバーが健康で仕事に取り組んでいることは、本人のみならずドライバーの家族の幸せでもあり、トラック運送事業者にとっても、ドライバーの定着率の向上、事業を継続していく上で、経営の安定にも繋がる。ドライバーの健康増進には、まず定期健康診断結果のフォローアップが重要であるが、全日本トラック協会には「運輸ヘルスケアナビシステム」(運用・NPO法人ヘルスケアネットワーク副理事長 作本貞子)に基づき、健康診断結果から健康起因事故に繋がりがやすい「肥満・高血圧・脂質異常・高血圧」などのハイリスク者を可視化し、再検査・精密検査等の受診勧奨について専門家からしっかりとアドバイスを受けることができる支援がある。全ト協が費用を半額負担し、一人あたり千円(税抜)で利用できることで、積極的に活用し、更に健康に着目した経営を目指すことが重要である。

さらに、全ト協では食生活の重要性の観点から、令和6年度において「食」をテーマとした健康増進の取り組みを進めており、ドライバーがスマートフォン等でも閲覧できるように、短時間の動画を制作し、順次、全ト協ホームページ (YouTube) に掲載している。



業務前・業務後点呼時にはアルコールチェック等を行うとともに、目視でも顔色や声の調子などドライバーの様子を観察することで健康状態を把握する



脳・心臓疾患発症の要因となる高血圧の予防には定期的に血圧を測定することが重要であることから、業務前点呼時の血圧測定を推進している